

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年2月9日 (2017.2.9)

【公開番号】特開2015-144974(P2015-144974A)
 【公開日】平成27年8月13日 (2015.8.13)
 【年通号数】公開・登録公報2015-051
 【出願番号】特願2015-104437(P2015-104437)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月27日 (2016.12.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球が流下する遊技領域と、
 遊技球を前記遊技領域の上部へと打ち込むための遊技球発射手段と、
 前記遊技領域に設けられ、遊技球が入球可能な判定用入球部と、
 前記判定用入球部への入球に応じて当否判定を行う当否判定手段とを備えた遊技機において、

前記遊技領域の上部に打ち込まれた遊技球を前記遊技領域の左右何れか一方寄りの第 1 流下領域か、他方寄りの第 2 流下領域の何れかに分けて流下させる流下規制枠壁と、

前記第 2 流下領域を流下する遊技球の全てが通過するように前記第 2 流下領域の上端部に配置された共通通過路と、

前記共通通過路から二股に分岐しかつ下端同士が合流した低速分岐路及び高速分岐路とを備え、

前記高速分岐路より前記低速分岐路を遊技球が通過する通過時間が長くなるように構成し、

前記判定用入球部を、前記低速分岐路及び前記高速分岐路の下端同士の合流部で、前記低速分岐路及び前記高速分岐路の何れを通過した遊技球も入球可能な位置に配置すると共に、前記判定用入球部の側方に前記判定用入球部から外れた遊技球を流下させる外れ流下路を設け、

前記低速分岐路の途中に、遊技球を前記低速分岐路外に排出させる途中排出口と、前記途中排出口を開閉する動作を繰り返す開閉扉とを設けたことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

上記目的を達成するためになされた請求項 1 の発明に係る遊技機は、遊技球が流下する遊技領域と、遊技球を遊技領域の上部へと打ち込むための遊技球発射手段と、遊技領域に

設けられ、遊技球が入球可能な判定用入球部と、判定用入球部への入球に応じて当否判定を行う当否判定手段とを備えた遊技機において、遊技領域の上部に打ち込まれた遊技球を遊技領域の左右何れか一方寄りの第1流下領域か、他方寄りの第2流下領域の何れかに分けて流下させる流下規制枠壁と、第2流下領域を流下する遊技球の全てが通過するように第2流下領域の上端部に配置された共通通過路と、共通通過路から二股に分岐しかつ下端同士が合流した低速分岐路及び高速分岐路とを備え、高速分岐路より低速分岐路を遊技球が通過する通過時間が長くなるように構成し、判定用入球部を、低速分岐路及び高速分岐路の下端同士の合流部で、低速分岐路及び高速分岐路の何れを通過した遊技球も入球可能な位置に配置すると共に、判定用入球部の側方に判定用入球部から外れた遊技球を流下させる外れ流下路を設け、低速分岐路の途中に、遊技球を低速分岐路外に排出させる途中排出口と、途中排出口を開閉する動作を繰り返す開閉扉とを設けたところに特徴を有する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

〔請求項 1 の発明〕

本発明の遊技機によれば、遊技領域に打ち込まれた遊技球のうち、第 2 流下領域に打ち込まれた遊技球は、共通通過路を通して低速分岐路と高速分岐路との何れかに振り分けられて判定用入球部へと向かう。このとき、低速分岐路を通過する遊技球は、高速分岐路より低速分岐路を遊技球が通過する通過時間が長くなる。これにより、判定用入球部へと向かう流下態様のバリエーションが増えて趣向性を向上することが可能になる。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

また、低速分岐路を通過する遊技球が、開閉扉の動作によって途中排出口から排出されることがあり、開閉扉の開閉動作によって趣向性をさらに向上させることが可能となる。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

< 右側流下領域 R b の流下経路について >

右側流下領域 R b の上部には、その右側流下領域 R b を流下する遊技球の全てが通過する共通基幹経路 50 が設けられている。共通基幹経路 50 は、遊技球が 1 つだけ通過可能な幅をなして上下方向に延び、その共通基幹経路 50 の下端部に、第 1 基幹流下経路 51 と第 2 基幹流下経路 52 とが二股状に連絡されている。第 2 基幹流下経路 52 は、第 1 基幹流下経路 51 との分岐部から遊技領域 R の外縁部に沿って下方に延びており、その下端部の排出口 52 B が、始動ゲート 30 に向かって左斜め下方に開放している。また、第 2 基幹流下経路 52 は、遊技球をサイド始動口 32 A に入賞させないように案内して、始動ゲート 30 や、その下流側に配置された特別始動口 33 A、第 1 及び第 2 のアタッカー口 34 A、35 A に向かわせる。

【手続補正 21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

図 4 に示すように、第 1 基幹流下経路 51 は、第 2 基幹流下経路 52 との分岐部から、第 2 基幹流下経路 52 よりも大きく左右に蛇行しながら下方に向かって延びており、遊技球が通過する通過時間が、第 2 基幹流下経路 52 よりも長くなるように構成されている。第 1 基幹流下経路 51 の下流側には、サイド始動口 32 A、特別始動口 33 A、始動ゲート 30 等が設けられている。

【手続補正 22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

【表 1】

| | | | |
|----------|--------|-------|-------------|
| 第1の当否判定権 | 特典付き当り | V入球あり | 確変有り・時短有り状態 |
| | | V入球なし | 確変無し・時短有り状態 |
| | 特典無し当り | V入球あり | 確変有り・時短無し状態 |
| | | V入球なし | 確変無し・時短無し状態 |
| 第2の当否判定権 | 特典付き当り | V入球あり | 確変有り・時短有り状態 |
| | | V入球なし | 確変無し・時短有り状態 |